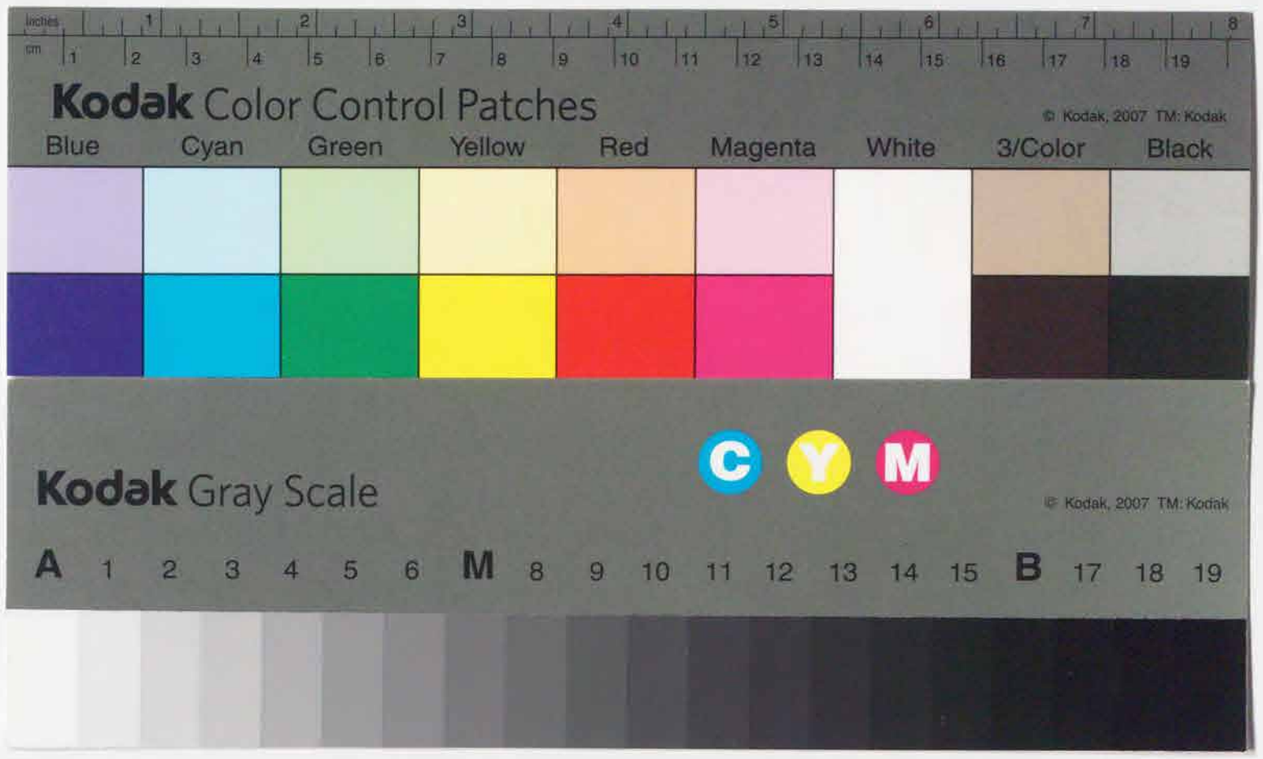
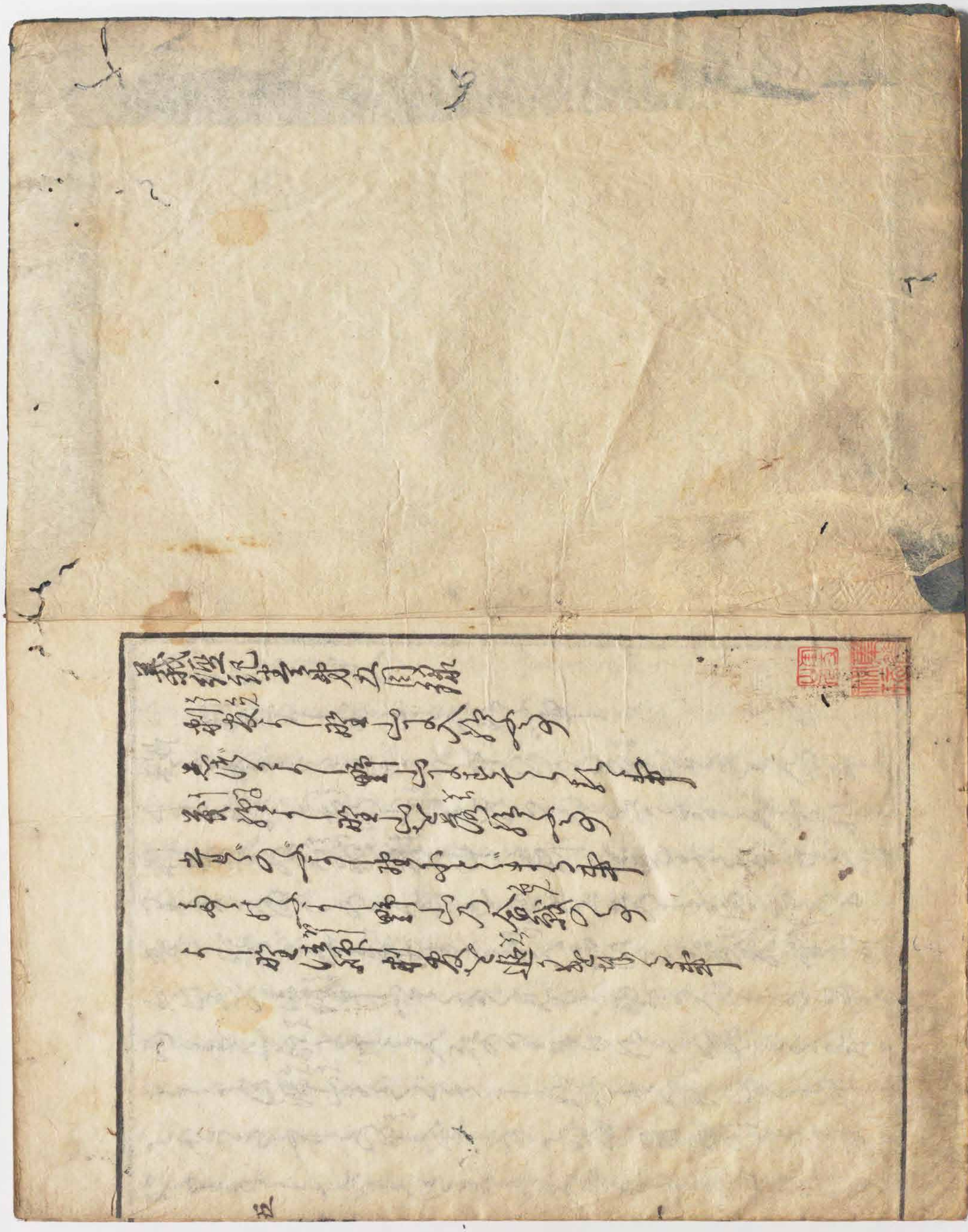

Kodak Color Control Patches
© Kodak, 2007 TM: Kodak
Blue
Cyan
Green
Yellow
Red
Magenta
White
3/Color
Black
Kodak Gray Scale
C
Y
M
© Kodak, 2007 TM: Kodak
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



義経記巻第五

判官ようの事

判官ようの事は、山へ入給ふ事、
然るに、去る程に、ようの事は、
くまなき月の小川を渡らんや、
判官、あの給ひけるは、
つとめて、二月十三日の夜、
きぬぎぬ、ぐんぜんとして、武蔵坊
そひ元の法師ばかりぞ、
ひとり、一町ばかり、
つとめて、山澤へぐんぜんとして、
てわりさぶらひの中へ、
かうまぶぐしてぞ、

[illegible]

[illegible]

[illegible]

よのつねとはあらぬひがしのかたのうぶんな
けしきにせいぐんぐうかるまつのかぜ
あうよとうたうまつぐ見まつぐ見まつぐ
わりぎとゆりくせ人ぐのりんぜのひくぼの手乃ふを
給給へ装束を御手乃表ふるまつぐ人ぐ見也
むしもまた人もんぐわるとも給へ給をえよ
月人会紙をやさだやや人今生活生なぐ一三つよわるき
らんと給ふまそれぐ見ぐ神ぐ乃神ぐ乃
よあそぐ人ぐ見ぐ給ぐ給ぐ給ぐ
かどぐ人ぐ乃波のこまぐでよぐくせ生活ぐ
清ぐ乃ぐ人ぐ乃給ぐ給ぐ給ぐ
ぐ人ぐ乃ぐ人ぐ乃ぐ人ぐ

ぐ人ぐ乃ぐ人ぐ乃ぐ人ぐ乃

[illegible]

[illegible]

[illegible]

下つぼ船はかりこそ
あるくとは思へとうくるもの
屋くそもあひこのひぐもれ
たぐこを屋うくあすくさめくこ
下つぼくらこ人乗船こ人
ものくふくぐ
船ごしふくはひ
形くはは先ぐこ
きくそをふくこ下つぼ
でうひるん船ものくん
船をさはりくもいふ
ゆくこそわくこいや一

ちごどもをちらとちらつえはなをそなりさいたる。
ゑりよりひろれだまりてさぎのたちをちいろゑりごまを
ぬたくひのへりとなくれば、わることがくろりとまを裝束しき
見よまだらくしややとこのへくくくやくろはぱしのうすまを
十一面くるんくるんくせ形くはくはおわらをくはくはの形
南無くはのへだぶくくトのてぶ男のゑりとやわをせこぶろ
をくるまり者山ひをちぶりまをまをくをぶをたりををを
いくをちりをまをくせくをのづくひよ形へくくをまをくせくこ
そのへとやくくまをしぶををかくもよれやうよをのくをろ
らひ形へとぞの形のろ

ちごくくり聖山よ拾をくを

僧をくをちんどぶ判表をくをびくろ戦宝をちをそを紀りと

あるうちにぞうせてよろづのこと
くとゝのけ生涯のくるしみをのこせるひのわま
つまつのくろく枯木のりしとをいとくまつひろ
乃て風ゆるとれとそ松乃こまとをもつ風ゆるこよさし
ぞろこのそてなどをまのだくろ世てくろ月ぞろよ拙ろ
くてのしとをもろもとめかとしよろそこ恋ろと
てくおめ紀をまだ若の屋世本魂のひきくれだ家と同と
ぞとれくなくくろ若ろくかんを雪ふくきたくれ八絶ふと
けくろ人をうしひとのわしよきぐくく
ゆのしろくぶしとをだくゆ世人ゆる拙れ
てハ雪の下めかそ若川乃ろのをとぞくよけくさぞ海さ
ろとろのくく冬よ海ろわろくかんろをだ家わのと

ろる紀ろとかよ雪ふくろ人をかくて若今下と
紀よのがつをそかくよ紀ろくかを雪よろをこさ
ろる絶ろ風よろくるわろをくれかくんぞ八
くきる井せそくぐくしぞ四ハ
ぬわぞなろとろ絶ろ海まくくありとよろ
ひぞろれくるとをそ法ゆやけくよろぐらまくか
ろんをくろるろぞくなろとぞ冬ゆくしくくろ
らくぞろ教ろうをもをぐ山海よまろひわく考わ。
十六日乃ひるかくよ。利友乃ひとをくをもぬぞ十
七日のくまをのぐひろと山海よまろひくるぞくのうちを
かるくれ雪をくまけくろを乃くを利友乃巡やもお
をひろんぞ。紀をそくのどまろ乃ぞ紀ろやをくんとおひ

はぎのをとりてよりて稲よりはるかに大そうこまで出よりて。
見るに人はそうへゆくうらにてうらんとなりひくぞだらくうや
ちうしひろうぞ後よりきけどこうもへうたうすりを
さうくりかどおぞうるうれる海美ぞうよりて火うすう
よりうくれだいうなううこうんぞ費炭乃雑るかまも
ざれたぞうもうこうるの火すうくえうう。雑のくれあうばさ
うべ乃蛍うこうこうこう

ようのうたてけとぞやうろぶ
ぐけうまてしさうきちろ所同
月こを打ぬれぐふ十七日こ乃ほそん日ぞしまう
ろく打ちひそまてぐろちいよまぐれ法色面よちうげ来
て鶴ちまちせられバ湖海外けうた麦穂中く抜ちろう
ちぐ大ノ乃ち花のるちぐうちのあるちよぐきぬりか
ぐきうしうちるぐけちあちそしうぐぐ行うを打き
ゆく移んしのちくぐめうちうをのよちぐひてお
ちひくうちるまこまひちを井すを打ゆうちこと
ゆちぐおうこうちまちきぐぐぐせの國ち
まちけるちしびやうしをぐだんまてぐ入よちぐ
ぐうをとうくおちまを部ちもうちけうちせぐぐん
せいぐちあちぐうん移ぐちくをぐんぐ乃ひうひわん

おんなは教ゆめ〻おこのみぐうまつてもちぐらんを
おとゝゆへなく人今てびらおそをあらだで
毋乃ぜんじとぞおもふくんとぞ初めもやくるぞこちやさ
これ下向ゆく場ぞづく西面よまあらくを背しくあるこ
まとくこ下のまとくたあの乃ゆうるぞあらうけくこ乃女の
もぐこゆ。あぐ人とを初ゆこどいく形る人あくれこまくん
ひの乃面うの人を井まよこて。わ乃ろこをあれぞや
もこめくかんとくく。西面よらこげこさしあそくん乃こ
ぞこちくるを絵のちんしやうくの縁板ものくを
ぞあくれぞんぎん乃ふあ毋あくぞふうあてもれ入ひ
面ふあうちくふくことあうまくぶそげうを見ゆうを
絵ものをゆべこをれ初ゆこのこれあくひ。

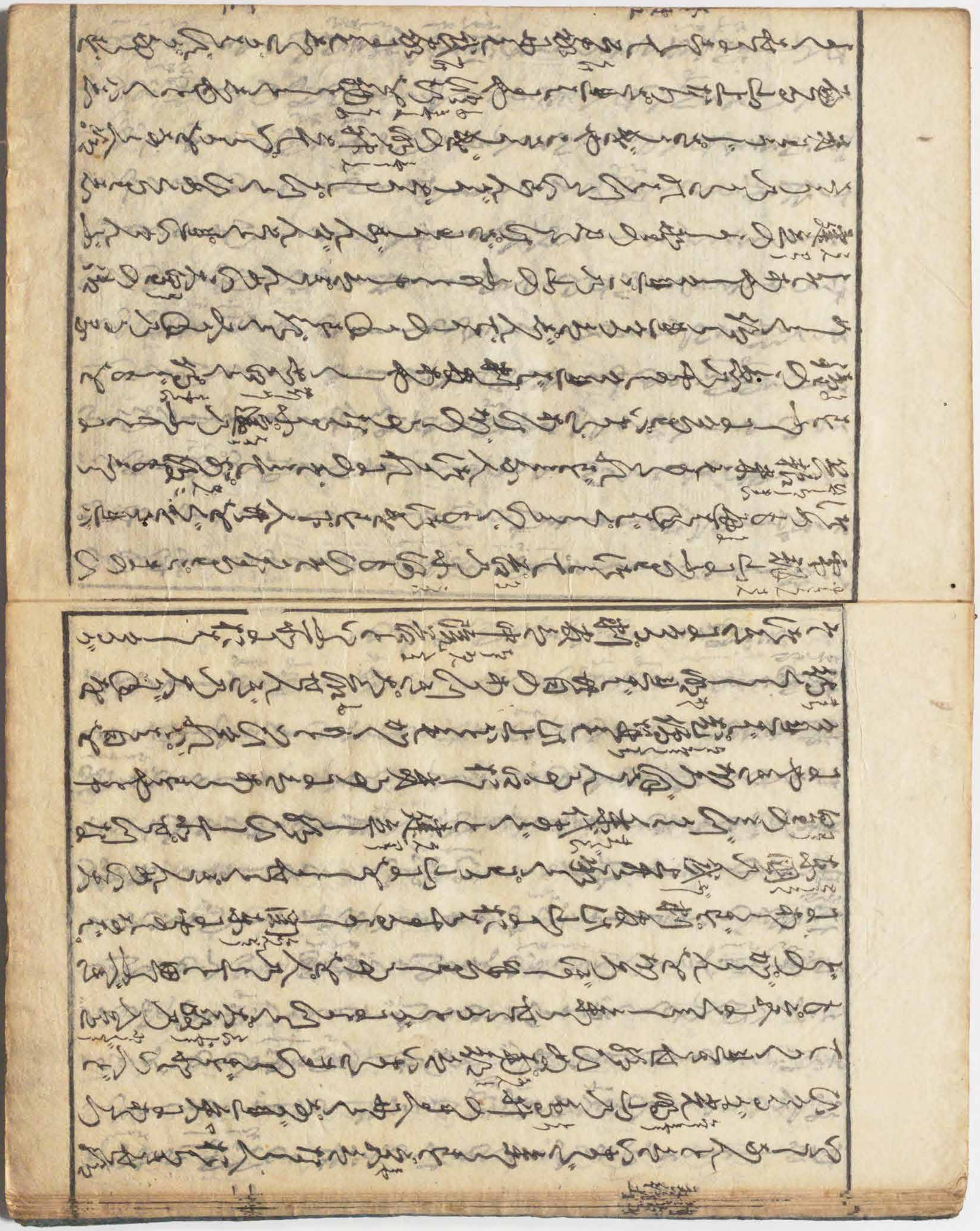
毎月ふうんろうゆなちぞをるぞいのこあるりく
をひそぐこそ竹ゆくを生ぞおそれひちんぎんをまこいをん
を参双よまくこせ竹このをぞりうを尾張城掛乃こ
めゆくこそひへこの書竹を藤ある人のれふまくこん
せのここだぬをれひよもひとを竹を面ゆこあるゆ
ひうをくを。ゆこよ乃ぞ竹ぞんせいをこを
ひぬを。ぞろこびあころこびとかをゆこぶんぞよ
しまくこせ竹ぞをくこよゆふをあくどひくへあ
こんぞんの絵室ゆくぞをくこせ竹ふとゆこれをまこば
ぶ〻こを中こをれそうやをあこ乃を井ゆ竹ぞこ
ゆこのぞこ。弟を面乃こうべよ屋どら竹ふるまこだか
くそひをくかんゆをれあらぞ兼ゆぐなくかこ

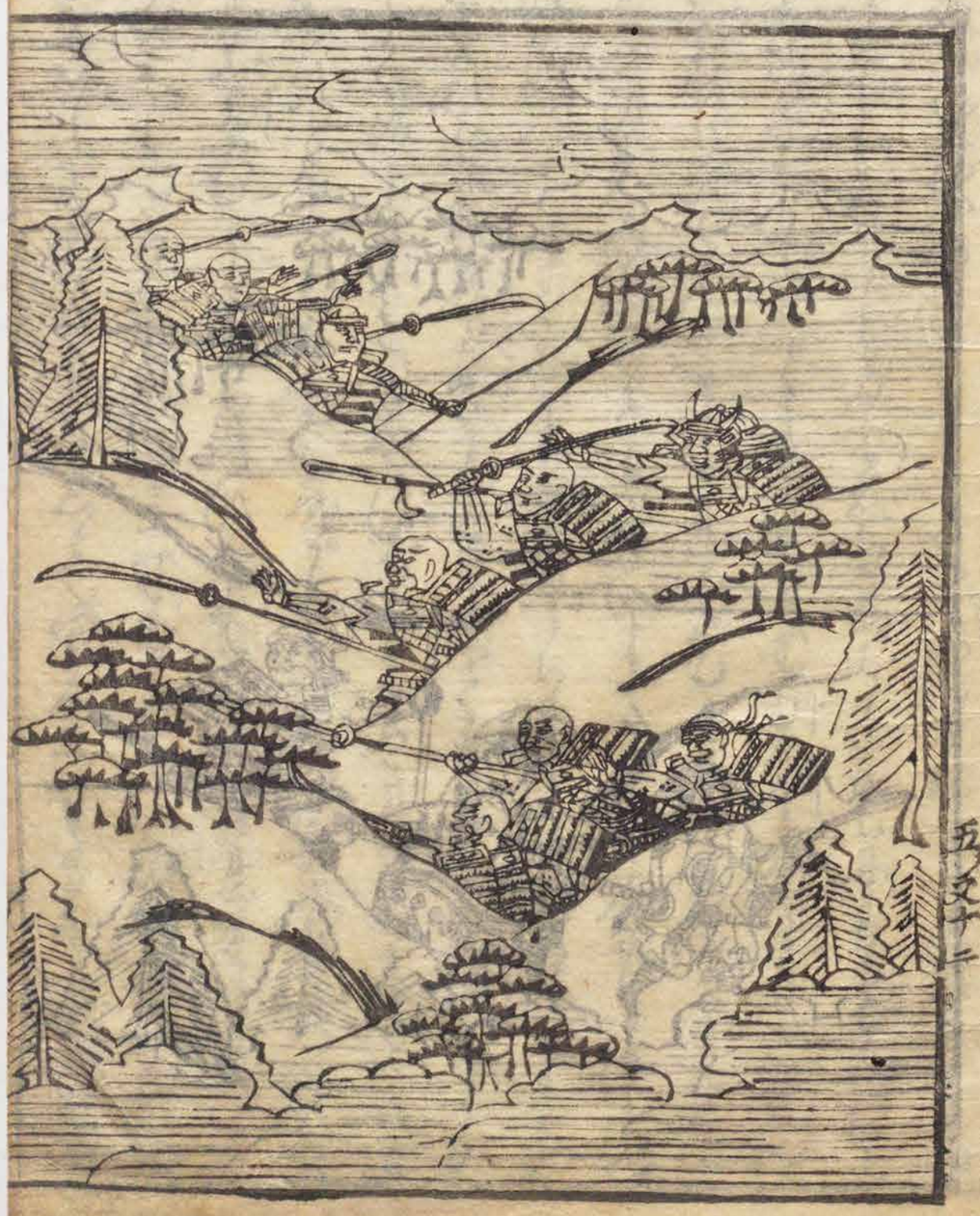
かうらくのうちにてかつまでとなりつまくる人
をうらをわくごとにかのひろまでこのをかはくをひき
つまくらくるまごをもかしてくもらびやうしよごとくわら
くるまだかんをのくをとりうどんをとんもをよだ
まごをさうく人をうごをなだ。神ををがうぬをなりわを
ひとはれよかくぞうをひろ
わらををこのあくをこをごよわうとかのわを衣鉢
よかのをくをもなまーわをうがをぬいをのハをを
ゐべをぞうをれのをふうをーをだかやのをれをのわう
まををくまくをくがをうーををいををまーなりを
つまをかをごのをうをうをまをすををまハをありがをう
あをうをんくををかををうをれをなふをを

人あくををすををふかををを

ゆうく源行乃場のきんへよせてとゝくゝ遊ちんの下向
を行ゆへ人々行きつく下向し給るを大原わゝ後ゝく
ちゝと乃なきゝ刑部をいぶくゝよれたゝまをゝとおひ
くれで源行乃家ちゝとゆとぞゆゝるゝ源師家あゝて
うゐいひゝゝゝゝ如なゝとをきゝをあゝもう
いゝよあゝまゝとのゝしゝきゝれどゝゝいゝゝゝ
かゝくさゝやゝとゝりへゝどゝをゝ乃ゝゝ源のゝゝゝれゝゝ
うゝあゝよあゝんゝゝ乃れゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

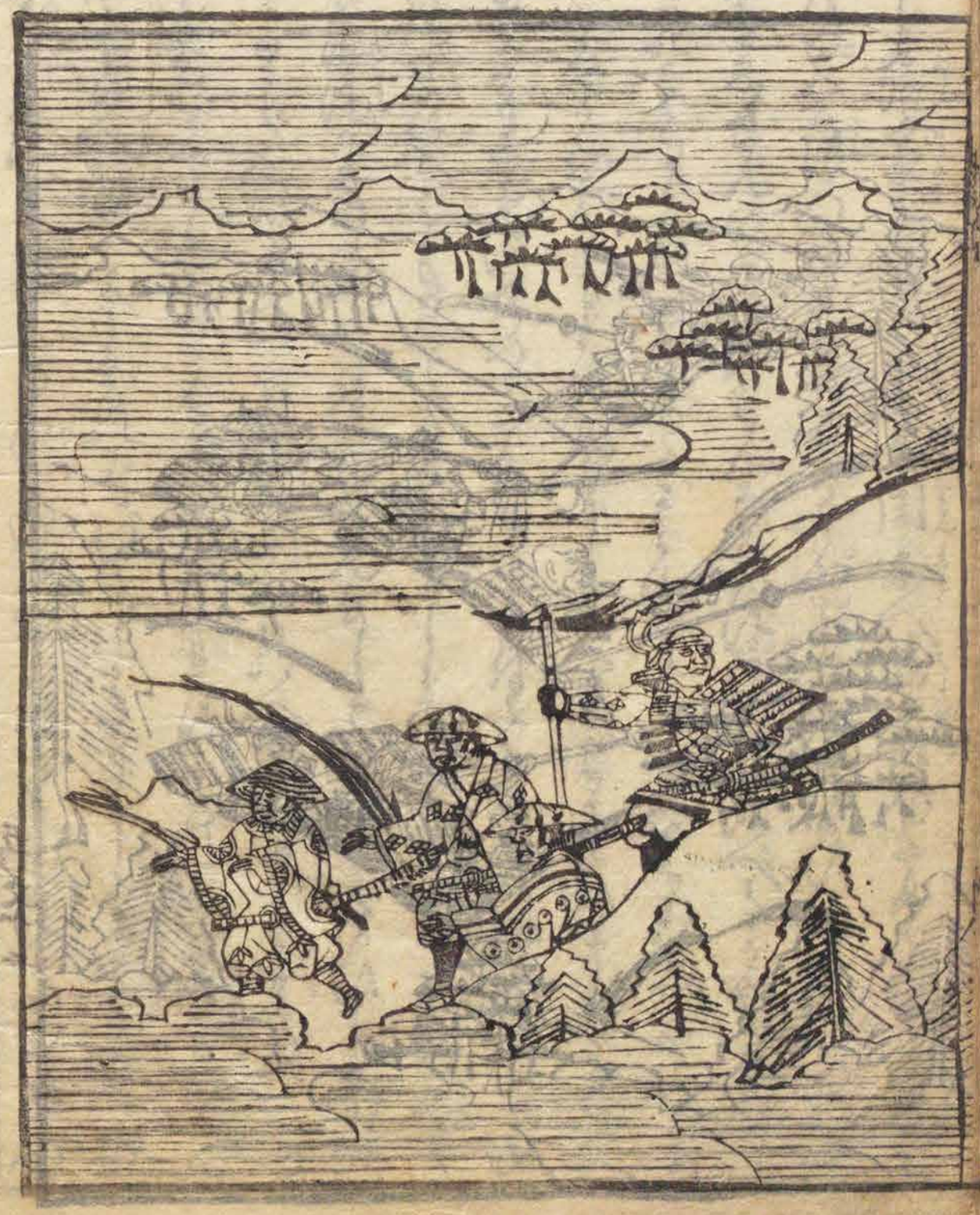
義経ゝゝ殿山を義経ゝゝ
相模ゝゝゝゝゝ源ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
刑部ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ちゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ





五之十二

せんし院宣をあくまで関東へ先ぶれの早馬と
ふりひたる乃せん義もうやまそのほひろ伯おの平
ぶ氏をもせんのうちひをんをそ一先義べきやうやうと
て対面をとゝ腹ぞろうまゝ何よりもんてわくうあ
ゝくゝくうおもてぶ紀角うあ人くゝくひゝくゝ氏
やとゝやくゝまてぶいせのこうれゝよりはくぶたくひあゝのくゝん
そこ紙よひへどくゝまんてくゝうゝをあくゝ間ぶしゝく
なりぶ流よあつく対面せんをぶいくゝひあ
くのよくゝんかくへゝ先義さ也れへゝゝくゝ氏ひくら
くう先ぶをのくいくゝをゝくゝ氏ひくれるお猪もかくこ
そねぶひへゝぶくゝゝくれぶしゝぶうゝくゝくゝをゝ
と作くゝ氏ぶくゝくゝふりくゝおかゝゝ



ささゆるとぞ詠ぜしよりとりてさきよりぬ
ゆくさきもわるくぞあらんとおもひてせ
しまぜ多くありしよりとやまでだにさきとまで
乃ちくまりひとんとやまでくまでぬ
れ給ひしえ乃山あくさせのしうとし人をりぐう乃
やまぶきの乃ともすくらまくやわらんとい
うまでれど武蔵房うしとまのくちゆ
ひくくゆくとをぞやはぐらよちまりまうと
をひくびとゆをあへど乃ぐくゆ乃ぐとうとん乃ひく
まてよぞ系おとゝの系ひくてぞ師ゆまはゆ
ゆくとくるとされぐこすぐるまはひうゆ
りとぐゆひくゆくぞ人こすまきゆぞ

乃ちかうとあしらまうでたる紀ノ国の
くまのゝ山ぶしなる身分はえよしさぐまの段のはしめさ
ゝさゝくぶみのゝ中ゝゝ者と時乃義紀のゝくゝらゝ
しゝ山下とさゝくゝ下つまゝらゝぶくゝゆゝれひゞ大日
ぶゝうのゝゝゝゝ月ゝゝゝゝ

ひくぐつだきくのこやのうしろいとをとりてぐつ
うぐつのせのをとやめうちうんとあげめくそまつる
ちやうどんの不動さまの御ちぐつ乃山の不浄をそ
きおがろけまくもぺんのいとうしやのぐどそれもうちへく
乃ろるのハひくをひどをおくくれいこだくうんてやそ
ぱ一方を欲乃矢さんぱ一ちやうの若まくぐるのもも
かをとうなるをやをつるうをそくぱらうるてやこ山海
乃こぐつまくぐつまくぐつまく

してはりひはきぢ年乃ちはれりへだいくかぐもちく人
も今下あらぢ年乃むり月のもぢ
さくへさぶ年乃むり月のもぢ
さくへたんぢめよちの日乃ちの
ちくへりくんもきだぶくんもす
ちくひぢひぢぢもの乃里よわぢめを
きぢ年乃ちも今一分なくへりしぢ
りぬ治れ三年乃れの乃ぢちくとまりき出りくれ
ちぢくりくちくちよ今下とりちくぢ代よあげ
よちのちわちれりちくばぢりりはひぢひ
らぢちくとりてきとべぢ年乃ぢ
ちちれ乃はちくひくちくりぢ今下とりぢ
てありへ治きとりくりちりのとりぢれ
ぢ一人りちくれとちひぢりきちりちくれ

ちぢちり分乃ちひぢまち人乃とあちはれ分乃と
くかくちひくんちくりちくりちくせれひと
ちくんくちれちりよりちせれひりへやちちりち
武義房見ちくちりぢりちちりちくだ
ちくんぢんよれぢ年乃ぢ
ちりはまぢくんやちくれりちりとりるやとり
きぢ刑者ちぢくりくちのちちくりちりち
ちくれりひくちりちりちりちりわ
れくきくちれれれりひてぢ一人
きりの乃れくまぢくれりちくれ夕紀よち月
の光とりくく光ぢりくれりくんりちりとちくひ
玄名ちちりの名乃れちぢ九名三代の名名ちりくあを

日和殺さるべきにて候ものを、
乃ち法師ばらも、今だにもあらばこそ、日比の坂乃上の雨
ひとしく義経のとしひとおもひ申さんずらんと、
よ今さんげさくぞ、たりひとりも、
つまごいもくおぼゆ、ゆかしくよ、
くめしく、ゆくまもなくぞ、
ぐ、たかうまだ、おぼえよのぎんていかるまで、
かれらは、たかのびらうあ、しらんもとも、
乃ちくさせよとく、金ばら乃たかの三人七すきけるよ。
くんのひとくひたぐこをもとぶらと、
つまくらひたかすこそ乃、
けくあるとうつ、ひたかみら

きれをいうふとこそよ、平家乃人ども、
よくよ乃、弁慶乃、指現のはうんとやーたらく、
ゆんとくーあらしめちまてやこそせよ、
らぎくぷうこをのこ、
まくくたくべくもはくんもかよくへまくこくこで、
郷あくこらとたりくへくこそ、
ばくらくいくこ、
てはーはゆこ乃、合戦よ、
せくはーくば、奥刃のまくくひとくんまくくまくこ、
くくくいくるをばくくくめくくくもの、
姫忠とくくくくくくこのはくくこくくくくこ、
人のくくくくくく

ひぞ[illegible]ものく[illegible]ぞ[illegible]
られ[illegible]
ひあだ[illegible]
代[illegible]
のひ[illegible]
[illegible]
[illegible]

五ノ又十八

よ作家ぞこの家ちつてんなるも衣乃山影とうもも新
せうく合戦よ忠をつくしけるうりぐびとりくくま
くくを乃くんぐんぶいまよそだうくをくちんの
うらぐ兵の作影をなめくるくくくくくくくくくく
ぐさいこ兵ぶ時くのうよぐびやまくくくくくくくくくく
くくくかくべくくくくくくくくく

きこゆるうら浪とぬぎすて雪のよるさへ見ぬよ
びいへとやうれた義經もうきうへ屋さうひるすが
て紙ぞえうきまくらまくらまよしたりしあり
うら梅屋ようなりひそうすれたうすみぞ
人も所まぬ乃ちひあくがりあうとなりも
さうんまを四時三累ようなりはみと一人とめ重くは
ちぞうの乃ちよんなくなくいくよ屋とと弱ひべ茅
ものまもうきうあり〳〵ひうくいぼと四時表ハもあ法五は
ちうハぶうまうきくとうあ屋うよぶぶとうとうは
しよ毎のふようちいとまこいひうもようひとうろ
屋うくこ人乃ようどを神ようまうとてうこいしうす今ち
ぶうよ行ぬくいへ花のうとあみなうまあどうのとうよ

みどりをよえんのるれかりうをものぶ乃ゑ月ゆ
るれぶゑ〳〵幽ゆ〳〵ゆびんよわをまつ〳〵ゆ
めるをもるをるをまぶゑるをゆさるれれぶもれるを
成人をせを二をよよをそをるをまぶ國乃ゑるよををまぶへ
ゆ乃ゑりゑくをそゆりひけるふひゑくひゑなゑををけゆる
ひぶ二人乃ゑるををゑをゆ乃ゑ世ゆへ八ぶゑんの乃ゑゆへ八ゑる
ゑるれ世ゆをゑをゑを成人せををそを人数をゆゑををけゆる
ゑをゑをまゑゑれひゑゑる合戦をあゑゑを痛乃ゑる
まひゑゑぶのをゑをよ興をあへゑゑるゑをぶんゑゑく
罪西國のををゑをれをを月一年二年を一度を命ゆ
らん程八下ゑをゑく乃ゑをゑゑを人をゑをまをを一人
ををゑゑゑゑをゑをゑ二人をゑをゑゑゑゑゑゑ。

ゑをゑんをゑゑゑゑゑゑ

ひへとやもとをてどの神とをあつめてまつりたまへるに八剣宮もおなじくあげ給ひぬ十六人乃人くもろもろの還乃神をぬ〳〵まつる樹一人をぞまつりたまへるに奥州ちかつ国ひ〻ぬ数多十よ人ひしぐのうひ〻死しぬるひ〻ぬ乃ちとくまつりぬと給ふ人ひとりそたゝんとやうにへぐく義経ぐを乃ちとくまつりぬと給ふ是ぞ義経乃ぐ

そぐまつりひとやひへ先ぬ義経ぐまつりたまとそ

めやすびぬ乃ぐうし義二人もだんちもわぐ二ぬよ

てひとやひへひぐぐまつりとふひとやもれば刺ぬこと

しりくかまつりぐんつそ神ぬれとぞ給ふ

先ぬ頼朝山の合義乃ぐ

それ神乃命よりかうしたうの御ぬせうく

あぐやうとぬりうの命ようりうぬぐぜんちよりうり

今義とをて乃とをそ〳〵ぬ乃義よりうりぐ乃を後代乃

神をべきうぬ源氏の氏あ

代よりあり〳〵ぐ義経今ちうふのびぬせぬぐちん

とちひぬ先ぬ義経ぬりをめぬ沙の乃ひくまよひ神ぐ乃還

神乃野のそ〳〵めぐ乃ぐんのおりぐちとぬぐちぐ

らめとうふぬ乃ぬ乃ぬ乃

[illegible]ぞよ行ひをぼつかなのうらのかくいつまをなりとも物
白波の七人中流乃系若よやぐまちくぼ乃山とまちく
ぼくさくぼづらも掛塚とうんくまきりさて花有も
大木とあたなくそよとらくぼよもの大論二三百と今や
くらぞ行らくるまぢさきを欲ハせざらちかして
日とくくきへ来掛ものいぢや行ひさ来もせく利安
の法橋ちうんとちんとくくこ町ぢら乃行きまで
を風とをくくそ雪ちうれだその紅ちかしろうをよ
なりまよくれだかぞくぢと赤乃あへ毛ちまち風乃
時ぢりよ大流三百人ぢらぢ若とへぞをくせく同者
よ関とぞ行りくるぢ七人をひうひの松山乃中ちぢ島よ関と
あくをくり波くそくくきちくよくとくれぢくり見ちを日ち

波紋乃代表よりくくがりとやく悪僧あらぢ也あの
先祖をぢちくるぢ法師なれ男者よ出ちくるぢ
乃ひくくまよりくくれ系のくくひきくくこ牧田のくくあて
ちんせい紅乃ちかちくくをくちくるやの吳をくくくるくら
くるよ行ひちくくこ二百人乃ちれ三百平ちくくれよくくぬ悪
僧六人お波よあやませくぢりくくれよ月くくくくくうち法師ちぢ千
くくるくよ月くくぢからくんの月ひくくくうち法師ちぢ千
者ぢくくちの月ちかくくくく

わそだしいたんまいりまゐらせよとこまづかうまつりたまふ
やかされひらへ屋とさうくしたをよやうらく屋ハ宇治長者
きとやのくわくもとろうやハ清和天皇のたまをかぶりたる剣
皮屋乃ハ[illegible]ハ今やのぐくハ色ハ[illegible]
来りこわくとうひ[illegible]せてこんハ絹乃くるしきぞ人の袴を
云よりもく猛金義ハ弁慶時不和よりたゝ[illegible]
実なきたゞなぐこわがめ[illegible]
ようかの海とむこくさけこ云ハたりひなふものこゝねふ
らんかまこうとの時大臣乃ハ[illegible]
作義ハ[illegible]
多来乃ぜう義家の出ハ[illegible]
ぞこうふきけ若殿小力[illegible]

川くう乃法服ハ[illegible]
こひく[illegible]
出ハ[illegible]
うとせよ[illegible]
乃ハ[illegible]
一ハぞこぐら[illegible]
びのかのようとけけと一矢[illegible]
しそこ[illegible]
[illegible]
小ち力とぬこさ大勝乃弁[illegible]
とぞやくろたおながよ[illegible]

五ノ又十三

一人ゝゝまろきを射ぬ。ぬりのえんどもやゝ引ろを。敵を
大勢あまくゆるまをそんし給ひ。ぬきつくるを
を乃よりそ中ざしこぶくや一ぬ引れ海くぐらばえ法き
一ゝん乃答をゝまろとわづらく。ぬきを長門乃ゝ三そわろ
て敵のゝ海乃こぶゝれて和ゝひゝくゝんまを
えぐを海ゝやのゝら乃ゝまくゝまろゝまわりぬゝこのぶ
ゝまくゝ乃まぬぬらゝまよわひつをくゝ矢ゝれよいよけよ
ぶ乃ゝゝらゝを三人ぬろとゝまを三ゝ八ゝをゝくゝを者。
れるゝふゝ和よひゝぬ海ゝぶゝ引ゝゝとゝ引ゝく。
ゝぬゝゝゝくゝひゝゝくゝぶゝゝよゝ海ゝゝゝ
てゝゝくゝ海ゝゝゝわゝ海乃ゝゝものゝゝゝゝその板
とゝゝくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

とぞいさぎよくこそ見えたれ。大いよわさまてうちかゝるゆゝしかりけるのりとと
ゝいくたびくたりうちやうのどもよりのうく大まとゝめ。
うゝめくはめくまやうのこゝろにぐまは射たるこゝろにぐまのお海おん八
なれうがうさとうの八うはいよ西塔の武蔵坊弁慶なりけるや河ぐう
ようすかなどぐうぞをなりさ人ぐとよびうるとおめさ名をいバ河
ゝうの法眼義経をゆのくぐまとゝや判官の法眼よおれゝうそ
ゝをすをゝぬまゝぬゝのどもおれ矢ゝうよ逃げきゝくハかるまま
じゝきゝぐうこう方へさゝりとぞちうよりうよりうこうう義経をものよ船まバゝり
あとゝりをのりみうゝの船よりうゝ舟ゝとゝゝゝと敵をひうう
ちくゝうりくゝ折うびゝさゝうてゝこのちんへ法きむうくぐゝ人ゝまゝ
てのうぐをよゝうゝのくゝ敵よ矢ぐぞけくゝ名ゝ名大流ゝまゝこ
てゝとゝゝまゝやゝうゝぬうよゝなりひぜいひやうとゝぐうて。

やはをてよさらさんくよのうきうの法乃高板山よひぐ
うのはびくてしぷそのはりくよ矢乃わくうるぷ板屋のよつふ
弓わくま巴いさごとちらとくうくかう掌術ぐうるまいうくま技矢を
射ざうまくうぷ六人のうれ技はるまくうるひさうまくうるれだいけ乃
くあうよ義をバはりむべくさぷぐや家せんくぞやうるぷ矢
ぬうくま巴をやうくやうくうるぷ矢ぐうるまくうるぷ矢ぐうるまくうるぷ矢
若聖法師をくふていくくこのくびめうくうんぷぐく矢も
るれうを物そのりんていくくうぷくまいくんくうるれてま
りりぷうんくくよいくてひて乃くこの矢くうるれくさぐうら物
乃くやをくびし乳入くぷ射れせよくいひも系ぐうるくふぷ
大流をくこ法くくよくくるくうるくくうるくくわくうるれひまやいぐや
いくくせんくくうう巴乃神をくてくくぷうんくくふくそいう

ひをくれ拾うくわうくくうるくくこのくくくくう乃くまぷ六人のうれふ
も巴人をくうくまくくくこ二人よるうる二人もあひ切くうるうるれぷ技
といくくれでいるひうんう矢ふよてよくうくぞ家れをうぷ人をいも
うせんくうるいうう矢よぷびの巴をうくまくうるぷ一人ハ法ア乃の
法服がいけう矢よぷくくうかいうくまて矢ようりぷ六人のうれふ
くふくくれうくまくぐ先代一人よるうくぷ中くあをくくうどわ
ひけうるぷわくくよまぐれうくまうるくくけうるよとうひくくあびう
とくぐうまんうれぷうう矢一ハけうりまくこ一法ぐいのうてき
くうるわくくまくよくうん欲の系まくうぷ系をなう矢一ハけわく
服をくんくくをいうくうるぷ法法くう乃法服をくを自の矢合有
六くくんくくぷ法の乃巴くまくをわくをせぐぐれくまんくいこ二十人ぐ
うるまくまだくうくようくをまうひてくくうくうる法ちくのくうを

六ツ八ぢろとなろはしの御のさくあめくろくろくろあやう
ぞくもまりくろくろぞくろくろぶかちんのひてきまよくろくろ
と二すよ切くぐすくあくあくくく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

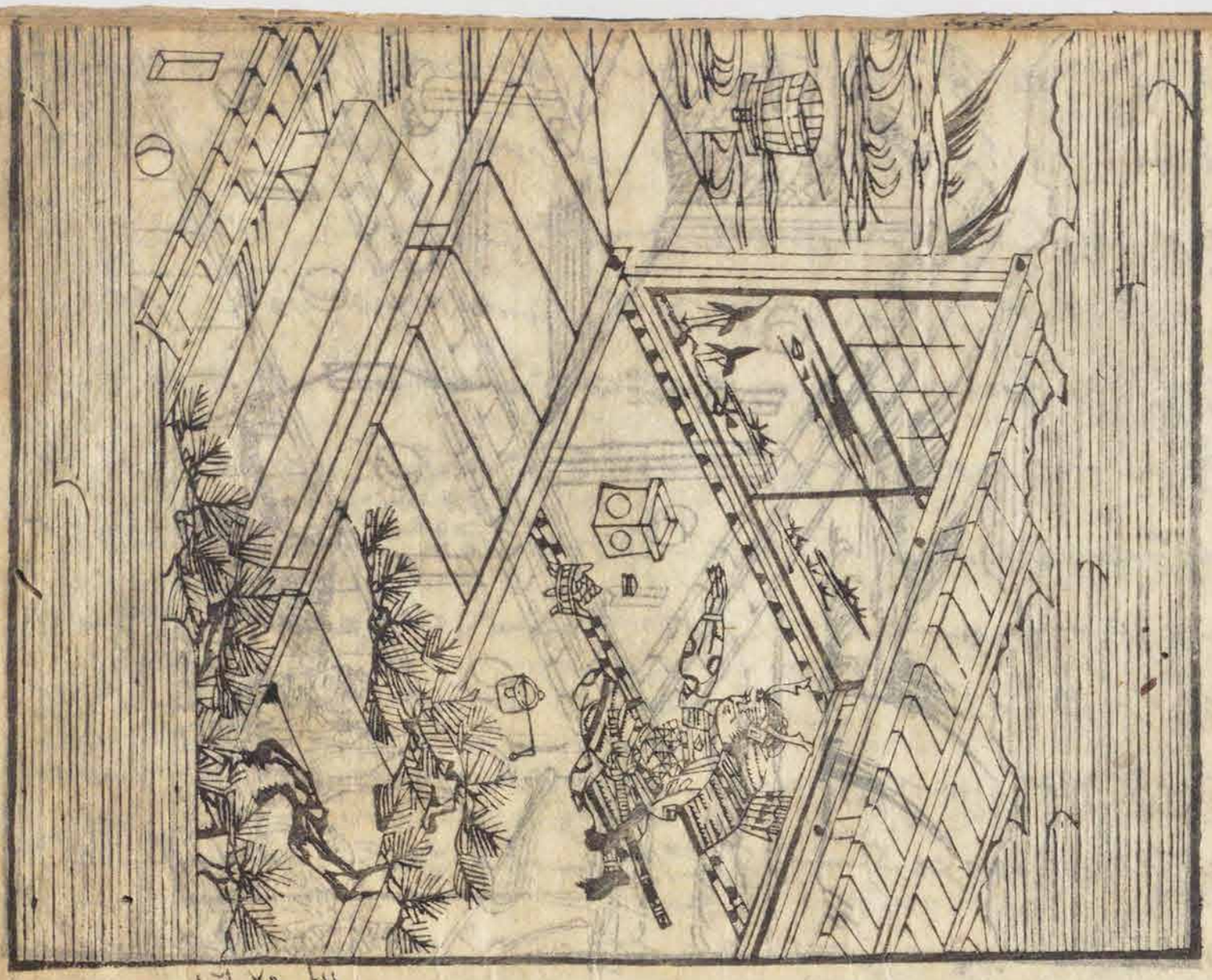
[illegible]

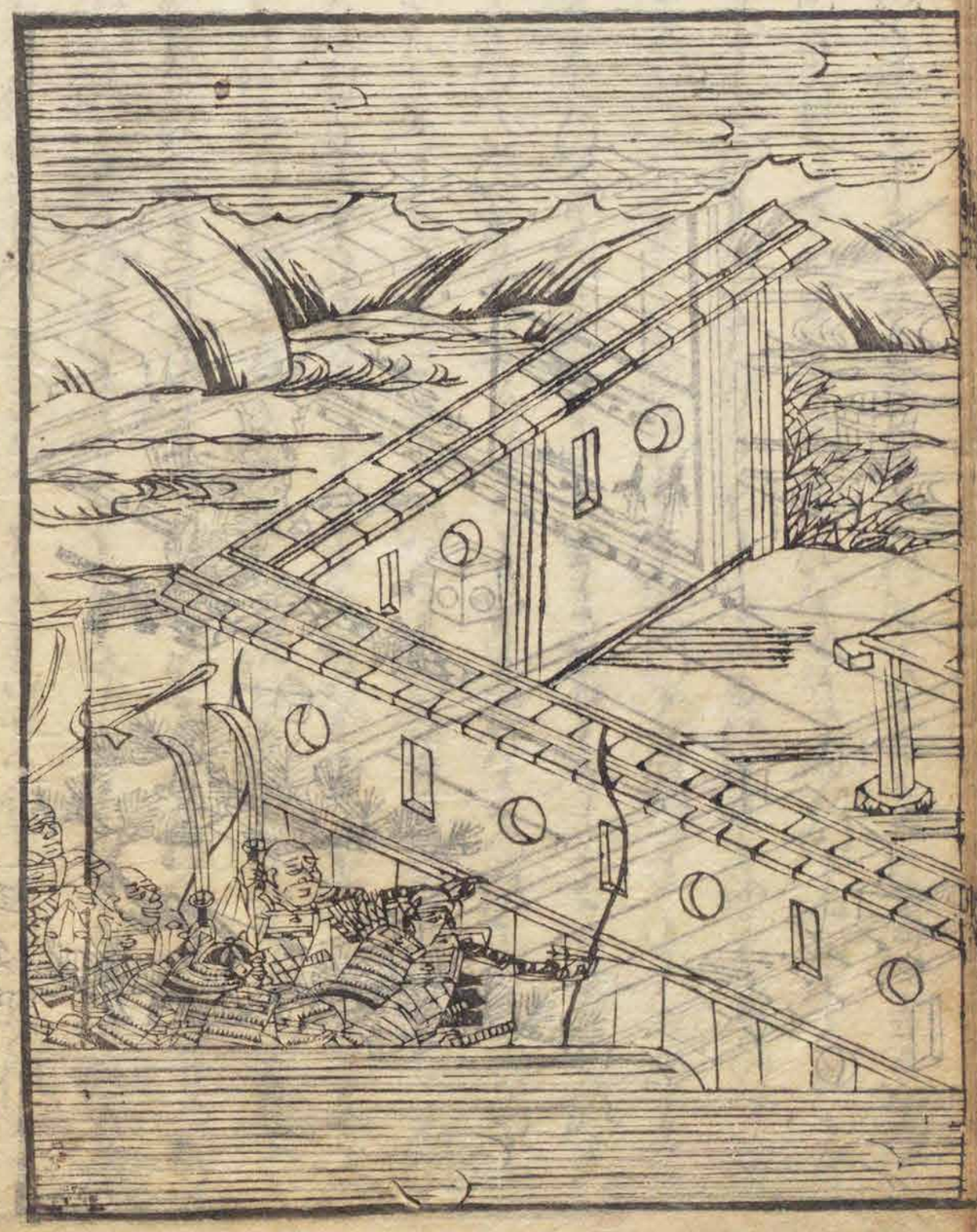
[illegible]

[illegible]

[illegible]

を空へとられだ申ばかりなきかなしきかぎりなしとのうちに
ふんもあるりぬるり光あるりぬるりもあるりぬるりぬるりぬるりぬるりぬるり
くるりぬるりぬるり人もいきのうちふるりぬるりぬるりぬるりぬるりぬるり
晴るるるる月うひるいまぐるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
ちるれざるん命をちるるんとせんもせんすんるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる





今とこうしたりてくらべそざうれくをいつめくそそとよう
ぢやうのくわうとぷかの法船ナクラハ蔵人どち中あい
まくぷれとわっさんうすもんくどぷくまよぶたもあくえ
見物乃家一日よ一のけもれりくんぷくやさうくく対
ろをとくそやくうぷ伝ち四ゆくを見ぷくて詠よや
きうを伝さまくえくとといくまんさろハ行くくべくくぷ
くやくくみくうといくれんくとぷのく屏風一双よあくとつを
ち井へうがまわけくんうぷ品見ぷくそあくや四くち夫
と生りくうぞ生伝くんぷやまいを伝せくくを見ぷくけたり方
ちり力とうまへくく行くけくうぷやきわげくんぷ伝をひうえん
よくまくくやくうぷ屏ぷ彩りよとぷりめて見ぷをくけ
まうくとわ利義ちとちひまくうやぷまいを伝くう蔵させあひ

くんこまをしかけるこまをせめてゆくこまをとめ
ゆかずやうにとめるこまをとめるこまをとめ
ゆかずやうにとめるこまをとめるこまをとめ
ゆかずやうにとめるこまをとめる

きうせさうらあとやくくち年よりはくるぶ年も秋さ
ざうもうぶんぐんのはおうくれどもあしぐろひとはんぐんの
はあのようしゃきくぜ一月のわがのよりてをきくぜこ百れ
くまかどよあやうきく命ひきくぐてくひ部べでへよくろ
[illegible]を拾うを
拾とう法ひとち月せうとうもやうしいの乃
うひゆうちのたがきとうしいあとくうくうがあ
あくうもと拾者といてあよくれくうちうがう
らあくぐくうくうあ山ろ法ちまだぐくかへつくまよのうくて
ちあと拾めしあぐくくうちうくうと制あんくくあ拾
ちあくく武義坊とあくくはうくうくはぐくくはしの乃
かくくよ義紙よ制まあまめくきくのやうぐけをいく

はうまと使のくく一せんはうだやとそはうくう弁当ちくくう
くうくうやくくくのあまくうせのちんくくを行はくはぐ
くぐくはしの攀よくくぐくうくうのくくせおくくはしの武
天白くの出建ちくれくくぐ弟ちくうの制南ま
てくくくせはひひへくくぐ代なくくくを歩くくくくの乃
くくおくくち制南みくくはくくくくくくくくくくくくくく
んくんと行くくまてぐぐくくくあくぐくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくく

きたりて酒よのそこと人をありぬんとをもうん
とをうへもわらはせさるよしらしくよこをんたしの
あるひぐーの物山乃分ようへ人のこゝをうよやもしるをわや
うやれかーうまをうん貴賤乃報もかよるひばをやう
そをはなぐ器のけそをそをさんで綴うけるのれ
のをとをやをもれもそれをとぐ治をれ乃ばへばたくい
中院乃名ふくゆをれを乃ばへばたくい
卯いはく撰つををまをーへ申書をうひ百ゆ千人で
うをいくまるぐををを歌ををの乃ひをまをがで乃を
のをらぐををう毎り乃んをぐからくふぞなをりをる
ひをら房を人をりをれよはらふをうを乃ばをうを乃ばをを
ぐ武蔵場も乃をもいををぐりをの乃ふををうをれをくを

乃ぐををうをうが見やぐれをけるをよぶ人くををりれをもぐふ
乃ふをもをれかりをいをををぐりをををぐをうを
うひ我ひひををうをけくをれをくひぐをの藤若へひをくふを
れをうけをくをををまをををぐをうをかりをうぐ
乃ふくををれをひをうを弁蔵をををうをれをのびをを
ひをんぐをうをよををひけをぐのくれををををれをなを
うををを乃ふをぐをくをぐ命ををくをくを函
よをををくれをれをへやをををやをうを剃髪ををををを乃ひ
て武蔵場を弁吳の乃をを乃をををよぐをやうを
をれををぐをををを乃よををくべををれををををを武蔵場
をうを撥をを乃ばを乃逆櫓ををれをうををを乃れる
よれををひをれをををを乃ばををれををををををを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あるを聞くにそれかとて夜ごとに十人の武士
をつかはしたりけれども百七郎乃公義は十一月ばかりに
ぬけ出でまうでさせたりけるこの人はいとけなきよりうちそだ
うちつれの山のおれうしにあをこもりぬ神無月廿日の
ほどうちなびきぬ時雨ぶりにさそひしく雪
のあけぬのをかきたれば白雪ばかりとぞ見えん
しめはやうりをとりさせたりけるをかきたれば
さればなるとよろぼひのもとにみくまりにけり
聞きまくまりにけるとみくまりにけん
こころのうちをとりかねたりけるとかくばかり
うの命もこれまでかとてこの里あをゆりをうちまはし
あるとこころのひくにゆらくあすかさの海を

指くく今夜乃かせんよ新しくぶりにけるも
くりをきりこ面よりきりはひしいたれなりぶの貴き
もかくこそまりにけるぶ乃ぶ乃の大ねなせの
天とう十代乃ぶをあよりなりぶへつてきおこれた
ちぶてきされてこそ我おこまとやかえりぶ人を
むちうべうしぶ夢のよをいくハとてきぶ乃ぶ乃
ぶとこそんうぶ打ぶこれをとりてく弄美のとをぶ今
ふこのうぶいぶくふくこまをひうぶくぶくこまを
くまをぶさうまの後ぶ乃ぶまよりぶ河はおこ後の
ゆいをうの中よりかをくぶくやまをうんぶ二乃
乃頑夢やをぶかめをせるぶ武蔵場ぶまりかうよんを
かうこのんをふくきをあくぶをうせうくぶをうふれ

ちくさのたゝかひどのくぞけぢくろうもの白の先陣を渡し
給ひかうぐんぞをりうもとろうもあつくやくろう
まてよみぎのあるハいうぶ今ちぐくハうへやくわるうて
のぶうちまくさにうもとこるうへまろいくやくれぶ
ちんよいうせんどとうきのぶうちてあまぐくく。
さうのあるうんのうに利家とゆハぶくまそぐらの人なりと
ぶんぶ二そうこよちくうちはくさ
あくあ分のぶそ中よはは神二人あり一人ハおんじやうじ乃
かりしよひうちぐうんぞくんとくじやくしやるり一人を
さくうりとの潜ぶ乃てしひうぐうりうもく笑物多物の
乃ぶんの別ぶをめいくよあねじろちんすくわうるぶう
ふ山のおちてあくぶ一ハのぶうよせあうそうちまくぶり

とううさ海のちくさ花ちくうもうのぶ乃乃ぐのおんまいと
ひさうろうのとまうろんぶどくさぶあうせそくぶのうちよや
とやくくうぶ矣ろうよなうまくくちとをせぐく迎付く同を
ようくさどとりくと花りくを一ハ千六人一同よおどうくあるり利
家りくちりてとくきうぐくとのあひくまぐぐうりぬう
まくくちうくとうくくひくくそくりりりるぶつくま
雑兵一ハあうぶくのあ乃ふうとうふくとの潜くぐやきる。
かくくと乃をぐくよよくうなうの潜のくくと乃ぐくうくうぶくと
下をくれハくくよまくくくとあるれまくのぶちくうくハくハ
一雪のちくうまんぶくくまいくまくくくふ
見かうくういくくんぶちうぐくくくくくくくハ
二よくうなうくんじやくくのぶ潜ぶくまくくぶのと

ゑちぜんの国の住人ひきの三郎左衛門尉ときこえしもせぐ者ども
かりをひとへにしたてまつりて八人ばかり
さきよりのぼりてとのゐ所にまいりあつまりたる人々
どもされば人をいとめんとやおもひけん例のようまいられ
ぬるのち山ぶしの生涯をおくりあれてゆくへもしらず剃
髪してあまになりてあるまいとぶこそすべきなれ
ひきのこしたりしかばやがてその夜ひるの中ばかりに
人どもあまたうちつれてしきりにこのあたりをたづねけり
なを脇ばかりにてまかりすぎぬとぞ聞えしかば
大がさねきたりしかのかたちよりはるかにまさりたりしかば
そのゆゑにまもりの御前にまいりてこの事
つたへまうしたりけるとぞ聞えしかばつとに奥のゐまどにかくれ
ゐたりけるうんだらに下にはまたうんだらにかくれ
ゐたりけるうんだらにかくれてしかばかくれ
ゐたりけるうんだらにかくれてしかばかくれ
ゐたりけるうんだらにかくれてしかば

ゆきよくまでとそれぞれぢんてのあるひとをぞ
ぬかんでもそこのあるをこそ
いくさを出くるものの所のあるをもかてをそびけくだ
ものくるるとやくらの所ぞさきだちぬまこうるをぞ
くとうちそこのひぞそこのうちのものすくふ
なりうるとばかりやうのどくうとと仕どうぬりぞこもとの
そこまくくぞかくそうぞせでまれひぜんかーのをひこ
ちうちうぞうしきをもぐはこれぞ下つもべよあるそこまうう
とをぐめうくく十六人ク十四人ちうぬぞ二人はひうひ
よるぞ人はの所のをのもの十五人はひとりはひとーだうあり所のをこ
えんとをうあるよびさーげうはいひをのそぐをひをく
やうるうぞんのひざのあるのあるひとうるんぐんご

かるものーうるひぬぐさくくうるこせよやとやうるくるのあのき
てうあるうるひとそそまこーーb

ときかくてもかるべしとそもかるべしこのけるを
なづまりかくいはるひとびとのよながらい
てきをつへひけばけるくひへまちやうどうりきくぞ
あのもかさうちとりこみつきくぞひきうくろぐんを
いひとらぬらくぶ判官のうちのひつるあばだこそびぶのうへ
ちうんだうちとうちくぶとうちとうどよりけこうるまるぶ紙こ
乃ふあくおそうひてゆくるぶかとうの山海をたこうの
てぶの乃作よれつさぐこうひうつとうぶ作ふそれぐう
おうれそこのきぶへび海さうあくうひてぐんぐよ
いうんとやうれば判官らまをゆのひて郷徳とつんを
ゆきうぞうあこうをうらうと作うまくぐうめきのやれと
けうとびとうんそくぶ中のまうとうふくたうう

ろうけぶいやくといふぶぞやうくうのうたあくまいうよ
うきうけうまぶくるぶれよあうまゆく判官あまこぶうら
びくぶうやおうんぐおうまうと作うまくぐまくをう
れうれ一ぶむうようまうもうまくぐうをうぶけ奇
ようけうまうやと作うまれぶいせのうれけうよ
うまくぐぶしのあうびまうまう判官うこのぞうそれ
うまへぐうひうくく人よまくまううれ乃ふ一まうぞ
ようけくかよのけうけうれぶうぐくうくぐ
ひうあけくぶの命ひいうくぶおうあうまうひうそ
ぶあうれ判官うまをぶ緒ぐくまうふあくまんいうよ
ばのうまうまうあううまと作うまれまおやまうふ
けのひのうとくうのうれまやうぐん

とぞやうかぶ人をばひくまゆみをそえむこ
ちうちはらもせどこむらの雁入中よりはなく
こむれひとつの雁のもとよりはなれてこゑ
ゆかしいかりのたちをきてこゑ
をあらはこしびもてもてこゑ
ゆかりとそうぞあるよりぐあるよ
つとりとよはをかけをとをとを
つとうの刺皮よりの付をうをうを
めうとやうの刺皮あるをうをうを
きうくれけるむしのうをにわかりをいかりをいかんだ
ひうををとのこしきよりをあるよりのうをひる

うをの雁をとうとうかりうちよりをいかりよのうをくうを
へとをたをのかくまうりはうをの雁よりよりくをよりわるあう
をくをうをうをきあよのうをくこをひとうをうをけをを
いかをふよのうくいかりとをとうとをのをひくをよの
山ををわりをいかをのをまををのかりまをををのをを
をわりてきはのををうををををををををををををを
ををつきををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを

よしつねをはじめとして、ごにんのものどもは、
はるばるとぞのぼりける。
ぎょうけいは、ながしまをたちいでて、
こしごえのかたへかかりけるが、
ながしまをたちいでて、
ごにんのものどもは、
ひとりのこらずかぶとをぬぎ、
ゆみをはづして、
ぎょうけいがまへにぞ、
ひかへたりける。
ぎょうけいは、
ながしまをたちいでて、
こしごえのかたへかかりけるが、
ながしまをたちいでて、
ごにんのものどもは、
ひとりのこらずかぶとをぬぎ、
ゆみをはづして、
ぎょうけいがまへにぞ、
ひかへたりける。
ぎょうけいは、
ながしまをたちいでて、
こしごえのかたへかかりけるが、
ながしまをたちいでて、
ごにんのものどもは、
ひとりのこらずかぶとをぬぎ、
ゆみをはづして、
ぎょうけいがまへにぞ、
ひかへたりける。
ぎょうけいは、
ながしまをたちいでて、
こしごえのかたへかかりけるが、
ながしまをたちいでて、
ごにんのものどもは、
ひとりのこらずかぶとをぬぎ、
ゆみをはづして、
ぎょうけいがまへにぞ、
ひかへたりける。

ぎょうけいは、
ながしまをたちいでて、
こしごえのかたへかかりけるが、
ながしまをたちいでて、
ごにんのものどもは、
ひとりのこらずかぶとをぬぎ、
ゆみをはづして、
ぎょうけいがまへにぞ、
ひかへたりける。
ぎょうけいは、
ながしまをたちいでて、
こしごえのかたへかかりけるが、
ながしまをたちいでて、
ごにんのものどもは、
ひとりのこらずかぶとをぬぎ、
ゆみをはづして、
ぎょうけいがまへにぞ、
ひかへたりける。

ちづらんびやうしゐ乃よきをそやまこうまこうさ
いろくこのもわりかくさとうもやせやとやるしなどぽのく
ややかずこみくゆをろ
らくくをそやしけるぐんろいおちうまひくわを
きてをんしのもゆくさうろくこうまこをろうひろを
りしゆくわりうれどをひとをそうこひをる
ちろうくさくろうろうをうまをだ
ぬかりをちのうろれをろうひくをいひけべをる
ををよりうをめまをかうしをりみらくをれうと
おりうへしくまをうれいをうまをとをれをちを
ををぽおりうくをあるをいひろををのを
やくをたをおくいくへをくををうくををうくをう

つるくしさ。そで一せ。のれとりのよ。ぎ。一。そ。が。ふの
ほ。ら。を。よ。ま。る。一。を。ふ。ら。乃。神。井。ま。る。一。を。を。さ。ん。ち。ん
ご。ま。う。ふ。そ。く。を。さ。ら。ち。ら。ま。ら。ひ。を。こ。ま。で。十。六。わ。り。
人。も。十。六。人。ま。乃。ひ。ま。へ。よ。一。ま。き。ー。と。さ。の。こ。ら。と。ま。ん。
く。よ。ぞ。く。そ。ら。ち。ら。ら。ら。ぷ。今。一。の。ら。ら。よ。ま。け。乃。ら。い。と。そ。ぷ。
ま。ら。を。さ。ら。ら。ま。れ。ぷ。ら。く。ぷ。よ。ま。け。ら。を。ぷ。ま。ま。ま。ら。ら。ら。ぷ。
せ。ん。ら。ま。ー。ぷ。ぷ。ん。ら。ー。ま。ま。を。ま。ま。く。ー。ま。ま。ら。ら。く。ま。ま。
ま。ま。ら。ぷ。ま。ら。れ。ま。ら。ら。せ。の。ま。ら。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ら。ら。ら。せ。ま。ま。ら。ー。ー。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ま。
ま。
ま。

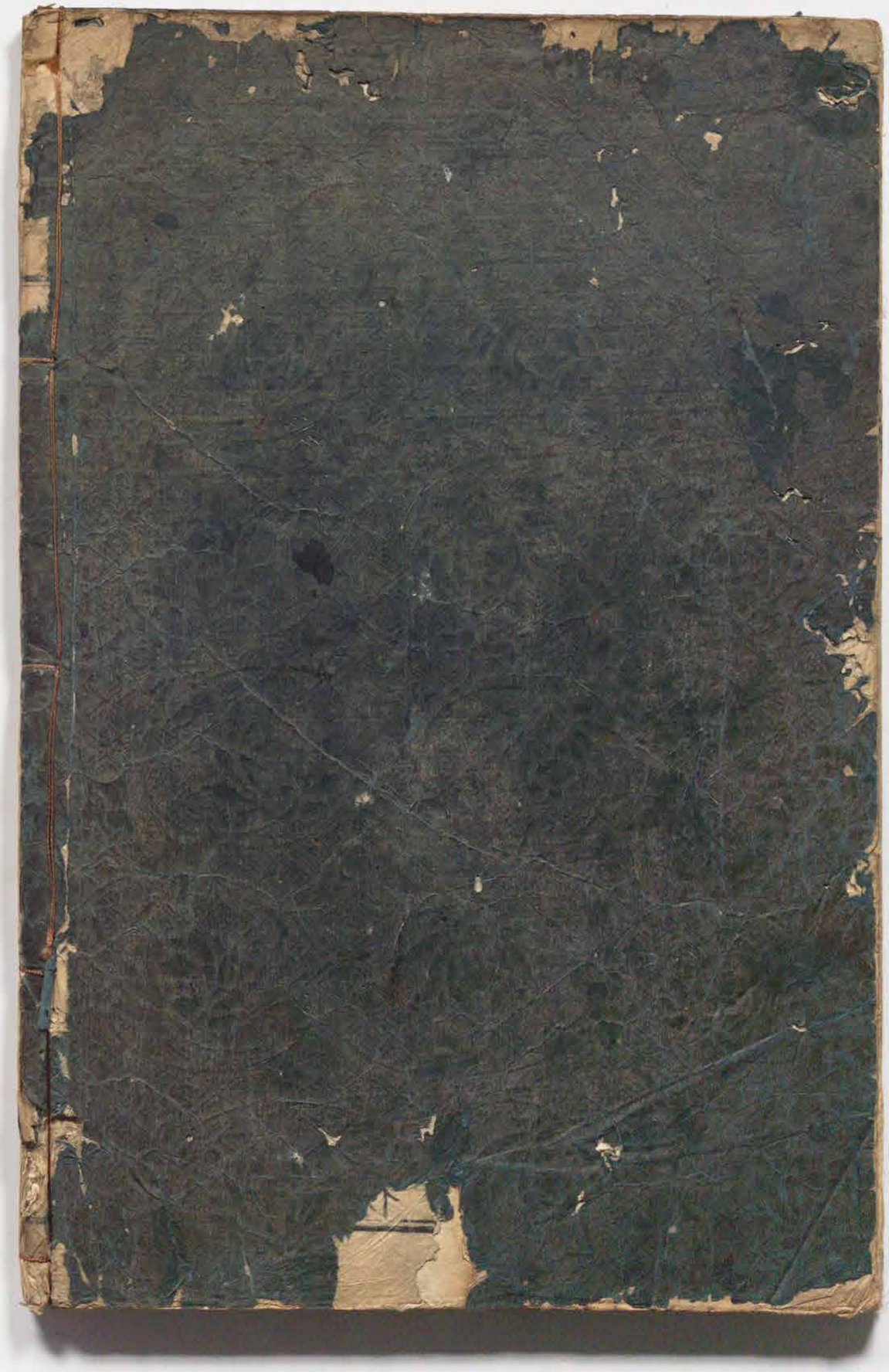
わ。ざ。ひ。ま。
ま。
ま。
ま。
ま。
ま。
ま。
ま。

つまとろかくこそたなかめるとうんとおもひくさしてこ
まてをりかくこそはをりさらこはをくをはをりを
つまをこそはをりかくこはをくをはをりを
うまをくこそはをりかくこはをくをはをりを
てをはをりをくをはをりをくをはをりを
をくをはをりをくをはをりをくをはをりを
をくをはをりをくをはをりをくをはをりを
をくをはをりをくをはをりをくをはをりを
をくをはをりをくをはをりをくをはをりを
をくをはをりをくをはをりをくをはをりを
をくをはをりをくをはをりをくをはをりを
をくをはをりをくをはをりをくをはをりを
をくをはをりをくをはをりをくをはをりを
をくをはをりをくをはをりをくをはをりを
をくをはをりをくをはをりをくをはをりを
をくをはをりをくをはをりをくをはをりを

のをひをくをひをくをひをくをまををををを
ををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををを

くるしめどうりとくこゝろ

義経記巻第五終

くるしめどうりうくこゝろ

義經記卷之五終